

麻布大学ティーチング・ポートフォリオ

所属 動物応用科学科

職階 講師

氏名 今野晃嗣

麻布大学では、教育研究活動その他大学の諸活動を恒常的に自己点検・評価し、その結果を検証して改善に結び付けることにより、教育の質保証を行う観点から、各教員が『ティーチング・ポートフォリオ』を作成しています。ティーチング・ポートフォリオの構成及び更新サイクルは以下のとおりです。

1. 教育の責任・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 年
2. 教育の理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 年
3. 教育の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 年
4. 教育の方法の改善・向上を図る取組・・・・・・・・・・ 毎年
5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組・・ 毎年
6. 学生の学修成果向上を図る取組・・・・・・・・・・ 毎年
7. 指導力向上のための取組・・・・・・・・・・ 3 年
8. 今後の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 年

1. 教育の責任

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

本学における私の教育活動の範囲は、伴侶動物を中心とした動物の行動および心理に関する生物学的メカニズムを学生に理解させることである。

「動物行動治療学」では、伴侶動物の学習原理および行動修正法の理解を促す。「動物発達行動学実習」および「応用動物心理学実習」では、伴侶動物とのコミュニケーションおよびトレーニングの方法を実践的に学ばせる。初年次教育科目では、動物に関する科学的な基礎知識を身につけさせる。伴侶動物学研究室における学生教育では、科学的な研究活動の理念と手法を実践的に指導する。

科目名	学科・専攻	単位種別	配当年次	受講者数(単位:人)
動物行動治療学	動物応用科学科	選択	3	100
動物応用科学概論	動物応用科学科	必修	1	137
動物応用科学実習	動物応用科学科	必修	1	136
動物発達行動学実習	動物応用科学科	選択	4	13
応用動物心理学実習	動物応用科学科	選択	3	54
基礎ゼミ	動物応用科学科	必修	1	140
専門ゼミ	動物応用科学科	必修	3	4

2. 教育の理念

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

第一に、「科学的知見を重視した教育活動」を理念とする。現代社会は急速に進む科学技術に支えられており、私たち一人一人が適切な科学的リテラシーを身につけておく必要がある。そこで私は、科学的知見に基づく意思決定ができるような学生の教育を目標としたい。また、「研究活動そのものが最良の教育活動である」という考えに基づき、学生の研究活動を積極的に推進するように指導したい。

第二に、「主体性および社会性を重視した教育活動」を理念とする。現代社会は多様性および流動性が高く、一律の「正解」を決めることが難しい。そのため、私たち一人一人が社会の構成員であることを自覚しつつ、各個人が自律的な問題解決と意思決定を行う必要がある。そこで私は、特定の問題に対して学生が主体的に取り組む能力と社会的に調整する能力の双方を伸ばすような教育を目標としたい。

3. 教育の方法

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

第一の理念「科学的知見を重視した教育活動」を実現するために、以下に挙げたような方法を実践している。

- ・汎用性が高い科学的根拠（文献含む）を必ず提示する。
- ・科学的な考え方それ自体を解説する。
- ・学術論文のデータを紹介し、研究の論理や視覚化の手法を解説する。
- ・理解度促進のため、授業内容をスライドや動画を用いて効果的に提示する。
- ・理解度促進のため、授業内容の予習や復習が可能な機会を設ける。

同じく、第二の理念「主体性および社会性を重視した教育活動」を実現するために、以下に挙げたような方法を実践している。

- ・授業形式にかかわらず、質疑応答を含めた学生からのフィードバックの機会を設ける。
- ・授業形式にかかわらず、学生の主体的な思考力や創造力を伸ばす課題を提示する。
- ・授業形式にかかわらず、学生と教員の対話に基づく双方向的な授業を実践する。
- ・実習科目では、グループワークによる課題を設定し、学生の社会的能力を育成する。
- ・実習科目では、学外協力者と連携することにより、学生の社会的能力を育成する。

（１）アクティブ・ラーニングについての取組

有

すべての授業において学生のアクティブ・ラーニングを促す取り組みを実施している。講義科目においては、知識を問う課題だけでなく、学生の問題発見能力や創造的思考力を問う課題を設定している。また、授業中における学生と教員間の即時的なコミュニケーションを促すツールを取り入れ、授業の双方向性の確保に努めている。

実習科目においては、グループワークを課すことにより、学生間で問題を発見し、その理由や原因を探り、教員の助言を受けながら解決策を導き出すという、一連の過程を体験的に学んでもらう。また、実習科目では学生以外の実習協力者との関係構築が求められるため、学生の社会的調整能力の向上も期待される。

（２）ICTの教育活用

有

すべての授業において本学の学修支援システムAzaMoodleを活用している。また、授業科目によってはGoogleのサービス（Gmail, Google Cloud, Google site等）やオンライン匿名質問ツール（slido）を併用している。

具体的には、授業前には授業資料を、授業後には授業の録画データを共有しており、学生の予習と復習の機会を提供している。また、ICTの活用により授業に関する連絡および情報の一元管理を実現している。こうした取り組みにより、教育効果の向上を図るとともに、デジタルネイティブ世代に合わせたICT運用法を指導している。

4. 教育の方法の改善・向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

(1) 教育（授業及び実習等）の創意工夫

A

- ・ 授業資料は図や動画を豊富に取り入れて視覚的に理解しやすくしている。
- ・ 授業資料は事前に配布するとともに、授業の録画データも共有している。
- ・ より深く学びたい学生のために追加資料や文献情報も提示している。
- ・ 授業中に休憩や課題や質問を与えたり、話し方に強弱をつけたりすることにより、学生の集中力が持続するように努めている。
- ・ 授業内容はできるだけ具体例を提示することにより理解を促進している。

(2) 学生の理解度の把握

B

- ・ 授業形式にかかわらず、複数の評価指標（レポート課題・小テスト・定期試験など）を組み合わせて学生の理解度を多角的に評価している。
- ・ 実習科目については、実習中の学生とのコミュニケーションの充実を図っており、各学生やグループの理解度や達成度に合わせた追加指導を行っている。
- ・ 他方、講義科目については中間的な評価は十分でなく、授業時間の途中で理解度が低い学生を特定するまでには至っていない。

(3) 学生の自学自習を促す工夫

B

- ・ 学生の主体的な思考力や創造力を伸ばす課題を提示している。
- ・ 他方、授業時間外学習が30分未満の学生も少なくない。主体的な学習態度を促進するための課題の設定や成績評価の仕組みのさらなる工夫が必要かもしれない。

(4) 学生とのコミュニケーション

A

- ・ 授業形式にかかわらず、学生と教員間のコミュニケーションを活発化するために、対面での対話や質疑応答の機会を十分に設けている。
- ・ 同様に、学生と教員間のコミュニケーションを活発化するためにICTを活用しており、それにより情報の一元化と情報共有の効率化を進めている。

(5) 双方向授業への工夫

A

- ・ 講義科目の双方向性を確保するため、質疑応答の時間を必ず設けたり、それを促すオンライン匿名質問ツールを活用したりしている。
- ・ 学生の提出課題やコメントを授業内で他の学生にも共有することにより、教員が一方的に話すだけにならないような授業を展開している。

5. 学生の学修成果向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

(1) 現在までの学生の成績向上に資する取組及びその成果並びに今後予定している取組

- ・ 授業資料の充実と視覚的工夫
- ・ 多面的な成績評価の導入と改善
- ・ グループワークの導入と改善
- ・ 学習支援システムおよびICTの活用による教育効率化

(2) (1) の取組を通じて改善・向上が図られた学生の学修成果並びに当該取組に対して得られた学生及び第三者からの評価又はフィードバック

前期科目「動物行動治療学」の授業評価アンケートの結果をみると、当該授業は学生にとっておおむね満足できる水準にあると思われる。課題の工夫や双方向授業に向けた取り組みに対する肯定的なコメントも複数得られた。

6. 指導力向上のための取組（FD研修参加等）

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

- ・ 大学主催のFD 研修会等に積極的に参加している。
- ・ 学修支援ツールについて情報収集を行い、指導力向上に努めている。
- ・ ティーチングポートフォリオ（TP）とTPチャートを作成した。

7. 今後の目標

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

本学における私の教育理念は「科学的知見を重視した教育活動」と「主体性および社会性を重視した教育活動」を柱とする。

これを実現するため、短期目標（約1年後）としては、初年度の授業内容のアップデートを行う。学生やスタッフからの評価を参考にしながら、自分の理念に照らし合わせた授業内容の改善を進めていきたい。

他方、長期目標（約5年後）としては、授業の実践内容と研究活動を有機的に結びつけ、学生自身が新しい科学的知見を生み出し、学会発表や論文の成果として発表できるような水準まで指導していきたい。

8. ティーチング・ポートフォリオを作成する際に活用した根拠資料

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

- ・ シラバス
- ・ AzaMoodleのコースページ（科目からのお知らせ，課題，教材ほか）
- ・ 授業資料（PDFファイル，PPTファイル）
- ・ 授業の録画データ
- ・ 各種Googleサービス（Google Cloud，Google site）を利用した追加の授業資料
- ・ 学生の提出物および成績（課題・レポート）
- ・ 学生とのコミュニケーション履歴（実習日誌・メールのやりとり等）
- ・ 学生による授業評価アンケート結果
- ・ FDプログラム等への参加記録